



東村山市子ども読書活動推進計画

(平成17年度～21年度)

進捗状況報告⑬ 『きょういく東村山』より

小学校でのブックトーク



ブックトークとは？

市立図書館では、毎年、小学校4年生の学級を訪問し、ブックトークを行っています。

ブックトークとは、一つのテーマに沿って何冊かの本を紹介することをいい、読書意欲を推進するために効果的な手法です。

ブックトークでは、図書館にある多くの本の中から7、8冊の本を選んで紹介しています。4年生ぐらいになると、子どもたちの興味の幅も広がり、また個人差も大きくなっていて、様々な種類の本を楽しめます。紹介する本を選ぶときには、日本の物語、外国の物語、だれもが楽しめるもの、面白いけれどなかなか手に取られにくいもの、学習の参考にもなる科学や社会科の本、更に、絵本やストーリーテリング（昔話などの語り）など、バランスよく盛り込んでいます。一つのテーマでも様々な種類の本があることを知り、子どもたちが多様な本と出会うきっかけになってくれるよう、工夫を凝らしています。

「もっと読んで」の声

ブックトークの当日、図書館員が教室に入ると、「図書館の人だ」「知ってる」などの声で迎えてくれます。市内5館の図書館から、それぞれ最寄りの小学校へ訪問しているので、知っている顔が何人もいます。

本は1冊ずつ順序よく紹介していきます。子どもたちが興味をもってくれそうな部分、物語なら導入部分を紹介すると、「もっと読んで」の声。「続きは自分で読んでね」と応えると、「え～」「するい！」と返ってきます。

最後に先生から「どの本読んでみたい？」との問いがあると、ほとんどすべての本に手が挙がり

ます。興味をもってくれたら、すぐに読めるように、紹介した本は学級に貸出ししています。

また、ブックトークの後は、図書館にも普段より多くの子どもたちが訪れ、「紹介してくれた本ありますか？」と聞いてくれたり、予約が入ることもあり、うれしい限りです。

学校中で本の楽しさを

今年度は富士見小学校から4年生以外にも依頼があり、1・2年生におはなし会、3・4年生にブックトークを2日間で行いました。その週末、富士見小学校に通う姉妹が「お姉ちゃんのクラスでは、この本を紹介してもらったんだよ。」などと話しながら、本を借りていってくれました。

ブックトークをしていると、子どもたちは、おはなしの世界が大好きだということがよくわかります。図書館は、今後も子どもたちの読書の機会が一層増えるように努めていきたいと思っています。

『きょういく東村山』第59号より

平成21年3月20日号

編集・発行 東村山市教育委員会